

授 業 科 目 名	考古学				
担 当 教 員	片岡 太郎				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・1/2時限	単 位	2 単 位
地域志向科目	該当 する ・ <u>しない</u>				
<p>【授業としての具体的到達目標】</p> <p>自然科学的手法を用いた考古学調査法に関する知識を深め、調査結果を適切に解釈できる能力を修得する。</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>現代の考古学調査に不可欠な自然科学調査（年代測定、材質・技法分析、三次元計測など）に関する論文や報告書を精読し、毎回の授業で発表・討議しながら、得られる調査結果の考古学研究における意義を考察します。</p>					
<p>【授業内容予定】</p> <p>第1回 ガイダンス（論文・報告書の選定） 第2回 調査の方法 1 第3回 調査の方法 2 第4回 遺物の年代決定 1 第5回 遺物の年代決定 2 第6回 遺物の年代決定 3 第7回 遺物の材質 1 第8回 遺物の材質 2 第9回 遺物の材質 3 第10回 技法研究 1 第11回 技法研究 2 第12回 技法研究 3 第13回 形態分類 1 第14回 形態分類 2 第15回 まとめ</p>					
<p>【教材・テキスト】</p> <p>主に、授業の中で必要に応じて提示します。</p>					
<p>【参考文献】</p> <p>Roger M. Rowell and R. James Barbour, <i>Archaeological Wood</i>, The American Chemical Society, 1990 沢田正昭 編 『遺物の保存と調査』 クバプロ 2003 東村武信 『考古学と物理化学』 学生社 1980 馬淵久夫・富永健 編 『考古学と化学をむすぶ』 東京大学出版 2000</p>					
<p>【成績評価の方法および採点基準】</p> <p>発表内容と授業に取り組む姿勢から総合的に判断します。</p>					
<p>【授業形式・形態および授業方法】</p> <p>学生の発表と相互の討議を中心とした演習形式で行ないます。また、実際の理化学分析機を扱いながら討論したり、博物館や遺跡を訪れて実際の遺物を実見しながら講義を行う場合があります。</p>					
<p>【留意点・予備知識等】</p> <p>高校程度の化学と物理学の知識があれば、講義内容がより理解できます。</p>					
<p>【オフィスアワー】</p> <p>水曜日 7・8時限目（14:30～16:00）</p>					

